

高知県感染症発生動向調査（月報）

2021年9月

高知県感染症情報センター

高知県衛生環境研究所

TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>

E-mail : 130120@ken.pref.kochi.lg.jp

全国情報

第35週(8月30日～)から第39週(～10月3日)までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における9月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると21.26で8月の23.16と比べて横ばいだった。季節外れの爆発的流行となっていたRSウイルス感染症は減少してきた。同じ9月で比べると過去10年で2020年の14.04に次いで2番目に少なく、新型コロナ対策の活動自粛と衛生管理により、再び日常的感染症は抑制された状態となった。

1位は感染性胃腸炎で4週換算値が8.49(8月2位7.84)と横ばいであった。2位はRSウイルス感染症で4.60(同1位10.17)と減少した。3位は手足口病で3.34(同6位1.20)、4位がヘルパンギーナで1.96(同4位1.23)といずれも増加した。5位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で1.51(同3位1.50)と横ばいだった。6位は突発性発疹で1.36(同5位1.22)と増加した。

〈新型コロナウイルス感染症 COVID-19〉

世界の患者数は、図1左に示すように、10月5日には2億3千万人を、死亡者は480万人を超えた。患者数を国別で比較すると、1位米国(4,385万人、人口あたりの感染率13.33%)、2位インド(3,383万人、感染率2.48%)、3位ブラジル(2,147万人、感染率10.18%)、4位英国(797万人、感染率12.24%)、5位ロシア(750万人、感染率5.14%)、6位トルコ(726万人、感染率8.71%)、7位フランス(712万人、感染率10.55%)、8位イラン(563万人、感染率12.59%)、9位アルゼンチン(526万人、感染率8.69%)、10位スペイン(496万人、感染率9.86%)である。

日本の患者数を図1右に示す。4月～6月の急増はアルファ株(英国型変異株)、7～8月の急増はデルタ株(インド型変異株)の流行が原因であった。9月から増加の速度が緩んできた。その理由はワクチン接種の推進のためであろうか(全国では全人口の66.1%が2回の接種を受けた)?しかし、先行してmRNAワクチンを進めたイスラエルでは再度流行がみられている。新たな変異株の出現も想定されるし、このまま流行が収束すると予想するのはあまりに楽観的である。10月5日時点の国内の感染者は1,705,778人、死亡者は17,756人となった。

高齢者ほど死亡率が高いのがCOVID-19の特徴である。ワクチンは65歳以上の高齢者を優先して接種が進められた。図2に示すように、各年齢層の死亡率は年齢依存性があり、概ね、80代以上14.1%、70代5.2%、60代1.5%である。ワクチン効果によって高齢感染者の死亡に歯止めがかかったかにみえたが、9月は再び死亡率が増加している。その原因は不明だが、デルタ株が従来株に比べてウイルス毒性が強い、医療逼迫の影響などが推測される。

図3Aに年齢層別患者比率に、10月5日時点で累積感染者が人口に占める割合を図3Bに示す(総務省統計局作成の2021年8月現在人口推計を用いて算出 <https://www.stat.go.jp/data/jinsui/pdf/202108.pdf>)。感染者の割合は、20歳代が最大で3.231%(100人あたり3.231人が感染)、次いで30代の1.995%、40代1.450%、50代の1.243%と続く。80代以上は0.615%で、70代の0.471%よりも高く、高齢者施設でのクラスター発生在、80代の感染率を押し上げていると推測される。

表1 各週定点当たり報告数(全国)

No	疾病名	週	35週	36週	37週	38週	39週	計
1	感染性胃腸炎		2.19	2.24	2.27	1.87	2.04	10.61
2	RSウイルス感染症		1.87	1.47	1.11	0.76	0.54	5.75
3	手足口病		0.58	0.67	0.80	0.98	1.14	4.17
4	ヘルパンギーナ		0.47	0.51	0.53	0.42	0.52	2.45
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.39	0.39	0.43	0.30	0.38	1.89
6	突発性発疹		0.34	0.35	0.38	0.31	0.32	1.70

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の9月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると25.74で、8月の58.42よりも減少したが、全国よりも多かった。減少の原因は、空前の流行となったRSウイルス感染症が減少したことが大きい。

1位は手足口病で4週換算値が10.31（同2位11.43）と減少したが全国よりも多かった。2位はRSウイルス感染症で5.52（同1位36.18）と減少したが全国よりも多かった。3位は感染性胃腸炎で4.36（同3位4.82）と横ばいで全国よりも少なかった。4位はヘルパンギーナで3.62（同4位3.71）と横ばいで全国よりも多かった。5位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で0.99（同5位1.53）と減少し、6位は突発性発疹で0.94（同7位0.60）と増加したが全国よりも少なかった。

<新型コロナウイルス感染症 COVID-19>

高知県におけるCOVID-19の月別患者数を図4に示す。東京五輪とともに急増し8月の集計は1,382人に昇った。8月25日には県下の1日最多の111人を記録した。

図5に高知県における年齢別患者数の推移を示す。7月以降に60歳代以上の感染者数は減少しているのは、6月までに65歳以上の高齢者へのワクチンが完了した効果であろう。一方で10代までの幼児感染者が増加している。8月以降で4つの乳幼児施設と1つの児童福祉施設でクラスターが報告され、課題となった。

高知県でもアルファ株が大多数を占めていたが、8月上旬には、さらに強い感染力をもつデルタ株に置き換わった。東京五輪開催による国民気分の緩み、夏休みの帰省にデルタ株が加わって、8月の大きな流行につながったと考えられる。10月5日時点で感染者は4,112人、死亡は31人である。

コロナとの綱引きは続き、県の対応ステージは、下記のような推移である。

2020年	12月2日	「注意（黄）」から「警戒（オレンジ）」に引き上げ
	12月9日	「特別警戒（赤）」に引き上げ
2021年	1月22日	「警戒（オレンジ）」に引き下げ
	3月4日	「注意（黄）」に引き下げ
	4月5日	「警戒（オレンジ）」に引き上げ
	5月24日	「特別警戒（赤）」に引き上げ
	7月21日	「警戒（オレンジ）」に引き下げ
	8月16日	「特別警戒（赤）」に引き上げ
	8月19日	「非常事態（紫）」に引き上げ
	8月27日	「まん延防止等重点措置」が適応（～9月12日）
	9月22日	「特別警戒（赤）」に引き下げ
	9月28日	「警戒（オレンジ）」に引き下げ

ワクチンの進み具合については、10月3日時点で（表3）、県人口の80.6%が1回目を接種し、71.0%が2回目を実施している。65歳以上の実に87.9%が2回接種を完了した。一方、12-19歳も38.1%、20歳代は39.4%、30歳代は44.2%と若い年代でも接種率が上がってきた。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	35週	36週	37週	38週	39週	計
1	手 足 口 病		3.21	2.54	2.96	2.39	1.79	12.89
2	RS ウ イ ル ス 感 染 症		3.50	1.68	1.00	0.36	0.36	6.90
3	感 染 性 胃 腸 炎		1.14	0.71	1.32	1.14	1.14	5.45
4	へ ル パ ン ギ ー ナ		1.14	1.36	0.82	0.82	0.39	4.53
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.50	0.14	0.25	0.21	0.14	1.24
6	突 発 性 発 疹		0.21	0.21	0.25	0.18	0.32	1.17

図1,2021年10月5日時点でのCOVID-19(厚生労働省HPから)

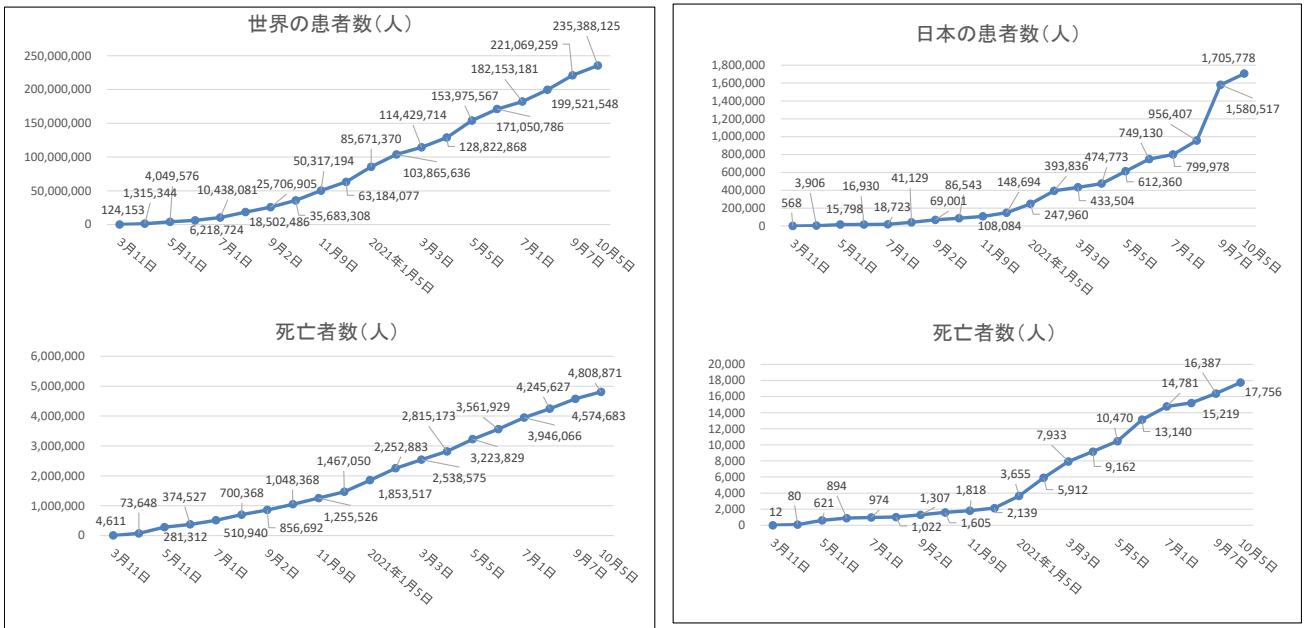


図2.高齢者におけるCOVID-19死亡率の経時的推移

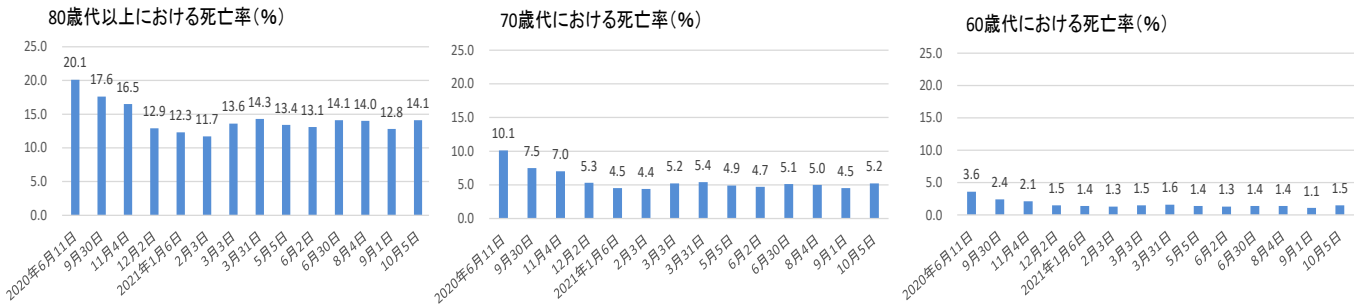


図3A, 経時的な年齢層別感染者数

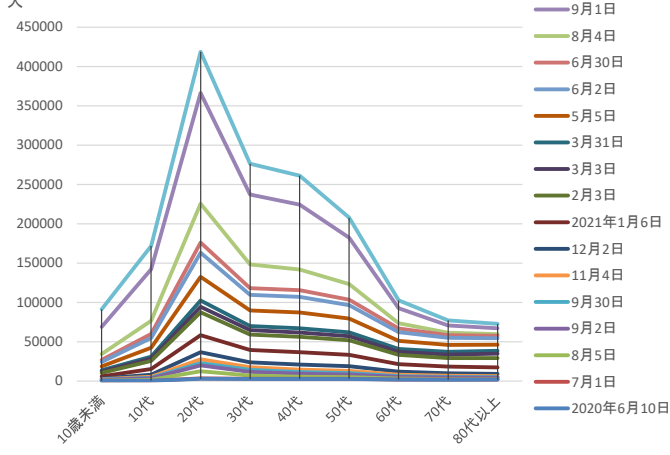


図3B, 年代階層別感染者割合 (2021/10/5時点)

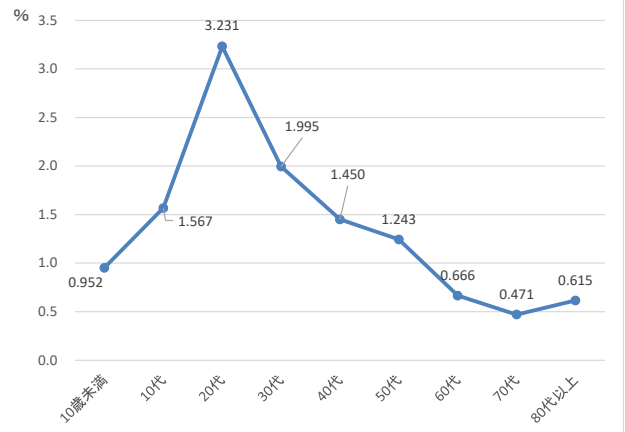


図4.高知県のCOVID-19月別患者数
～2021年10月5日

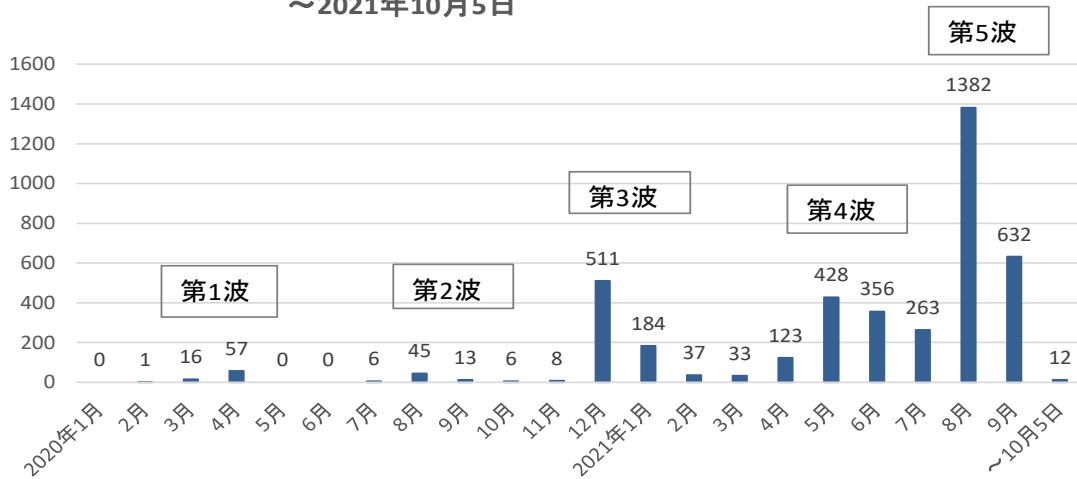


図5.高知県におけるCOVID-19患者の年齢別患者数の経時変化

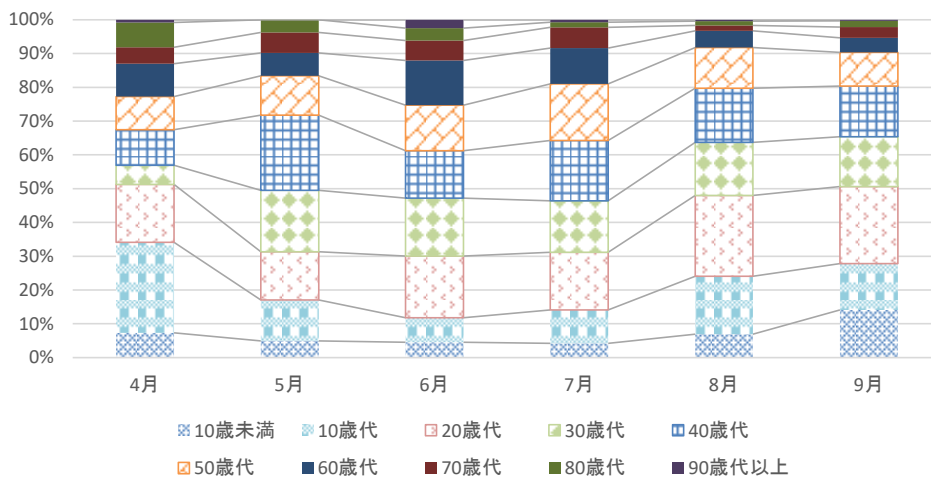


表3 高知県における年代別コロナワクチン接種率（10月3日時点）

	1回目	2回目
県全体	80.58%(全国77.4%)	70.97%(全国66.1%)
65歳以上	89.2%	87.9%
60～64歳	84.6%	80.7%
50代	81.7%	74.1%
40代	74.2%	60.4%
30代	65.4%	44.2%
20代	58.9%	39.4%
12～19歳	58.0%	38.1%

2. 全体の傾向

麻しん、風しんは報告なし。引き続き、衛環研のCOVID-19流行による業務増大のため、感染症発生動向調査としての他ウイルス検出は実施していない。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 0名 (8月 0名)。2020-21年シーズンはまとまった報告はなかった。統計がある1998年以降の23年間で

「流行」がないのは初めてである。新型コロナに対する感染対策とワクチン接種の励行によるものだったと推測される。

2) 咽頭結膜熱

報告数 12名(8月 21名)。10年間でみると2015年に次いで2番目に少ない報告数である。須崎、高知市、幡多から表記の順に多く報告された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 35名(8月 43名)。過去10年で最少の報告数だった。安芸以外の全域から報告され、特に幡多が多かった。

4) 感染性胃腸炎

報告数 153名(8月 135名)。ノロウイルス流行で5月は増加したが、その後、少ない数字で推移している。過去10年では2020年に次いで2番目に少なかった。県下全域から報告され、高知市、幡多、中央東から多く報告された。

5) 水痘

報告数 12名(8月 14名)。2014年10月からの予防接種定期化の効果で少ない数で推移している。高知市、中央西、中央東、幡多から報告された。

6) 手足口病

報告数 361名(8月 320名)。2020年は7月と10月にピークがあり二峰性であった。10月をピークとした流行が年を越えてだらだらと続いていたが、7月から増加を続けており、平年並みの流行となった。県下全域から報告され、特に多かったのは、須崎、高知市、中央西である。起因ウイルスはまだ同定されていない。

7) 伝染性紅斑

報告数 3名(8月 1名)。2020年9月以降は1けたの報告数である。中央東から2名高知市から1名が報告された。

8) 突発性発疹

報告数 33名(8月 17名)。想定内の変動である。

9) ヘルパンギーナ

報告数 127名(8月 104名)。2020年は遅れて流行し10月がピークで、その後だらだらと続いていた。2021年は5月に流行が始まり、同時期としては過去10年で最多、かつ、早い流行を迎えた。6月、7月となだらかに増加して平年並みの流行規模に落ち着き、8月は減少、9月は再度増加した。県下全域から報告があり、特に多いのは幡多、中央西である。流行ウイルスはまだ特定されていない。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 4名(8月 7名)。1桁の少ない数で推移している。須崎、高知市、幡多から報告された。

11) RSウイルス感染症

報告数 193名(8月 1,013名)。2020年は3月以降減少し、11月から3月まで異例のゼロが続いた。2021年は、5月57名、6月395名、7月1,543名と急増した。8月は1,013名とようやく減少に転じ、9月には大幅に減少した。季節外れの爆発的流行であり、とくに7月は、年間報告数(過去10年間の平均値1,114名)を1か月の報告数が上回った。全域から報告されたが、特に多かったのは幡多であり、今回の流行は、県中部・東部から西部へと移動した。まる1年間RSウイルスの流行がなかったことで、免疫のないウイルス感受性児が蓄積されて、大きな流行になったと推測される。県下全域から報告があり、幡多、安芸から特に多かった。

12) 流行性角結膜炎

報告数 3名(8月 1名)。高知市で3名報告された。

13) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 1名(8月 1名)。70歳以上の患者が1名高知市から報告された。本年の累積5名目となった。1年に

10名前後の報告で推移していたが、2017年以降は6名/年以下で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因とする小児例の報告は1例もなく、成人例も近年減少している。

14) 無菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（8月 1名）。従来は年間20－30名台の報告数で推移していたが、2017年7名、2018年1名、2019年5名、2020年2名、2021年も2名と少数で推移している。

15) マイコプラズマ肺炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（8月 2名）。2020年11月以降は、同時期として過去10年間で最も少ない報告数が続いている。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 20名（8月 16名）。平年並みである。高知市、中央東、幡多から表記の順に多く報告された。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名（8月 0名）。2020年1月以降は発生をみとめていない。

高知県感染症発生动向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（令和3年9月）

類型	病名	報告月									総計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
2	結核	1	5	6	7	3	4	5	6	8	45
4	重症熱性血小板減少症候群		2			1	1				4
	日本紅斑熱			1	2	2	3	1		2	11
	レジオネラ症						3	1	1	2	7
5	ウイルス性肝炎	1									1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1			1		1	1			4
	急性脳炎							1			1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1		1			1			4
	侵襲性肺炎球菌感染症	1		2	1	1	2			1	8
	水痘（入院例に限る）							1		1	2
	梅毒	8	4	4	6	8	13	6	10	14	73
	破傷風	1									1
百日咳							1		1	2	
	総計	14	12	13	18	15	28	17	17	29	163

高知県感染症情報 月報(63定点医療機関)

2021年

9月

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ										1
小児科	咽頭結膜熱			8			2	2	12	21	23
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			3	7	4	2	19	35	43	48
	感染性胃腸炎		5	43	64	2	8	31	153	135	117
	水痘			2	7	2		1	12	14	13
	手足口病		7	52	160	38	56	48	361	320	159
	伝染性紅斑			2	1				3	1	4
	突発性発疹		1	9	17	2	1	3	33	17	39
	ヘルパンギーナ		1	6	30	19	5	66	127	104	13
	流行性耳下腺炎				2		1	1	4	7	7
	RSウイルス感染症		23	16	16	6	6	126	193	1,013	1
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				3				3	1	1
STD	性器クラミジア感染症			1	6				7	3	2
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ									1	
	淋菌感染症				4				4		
基幹	細菌性髄膜炎				1				1	1	
	無菌性髄膜炎									1	
	マイコプラズマ肺炎									2	5
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)										
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスである ものに限る)							1	1		
	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症			3	16			1	20	16	27
	ペニシリン耐性肺炎 球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌 感染症										
計		37	137	342	73	81	299	969	1,700	460	
前月		48	314	611	89	57	581				
前年同月		17	65	201	46	81	50				
小児科定点数		2	7	11	3	2	5				

高知県感染症情報 月報(63定点医療機関)

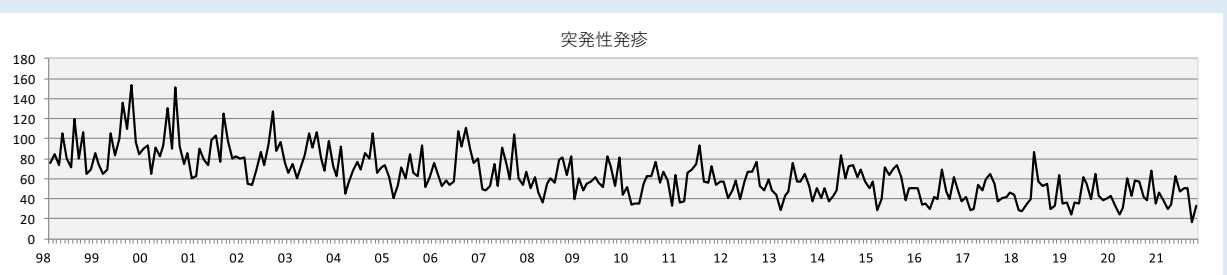
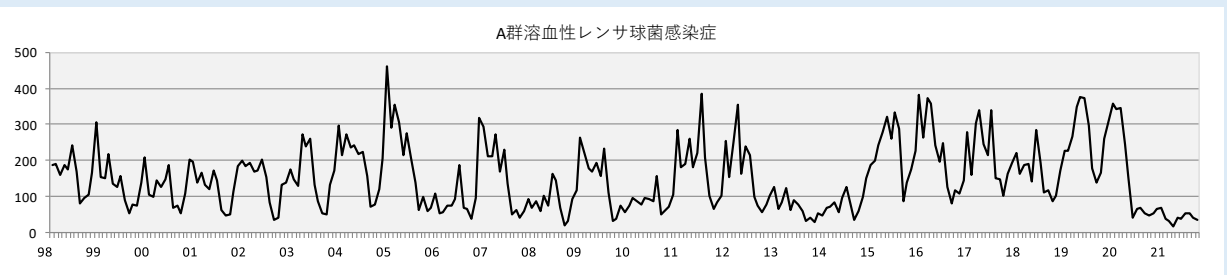
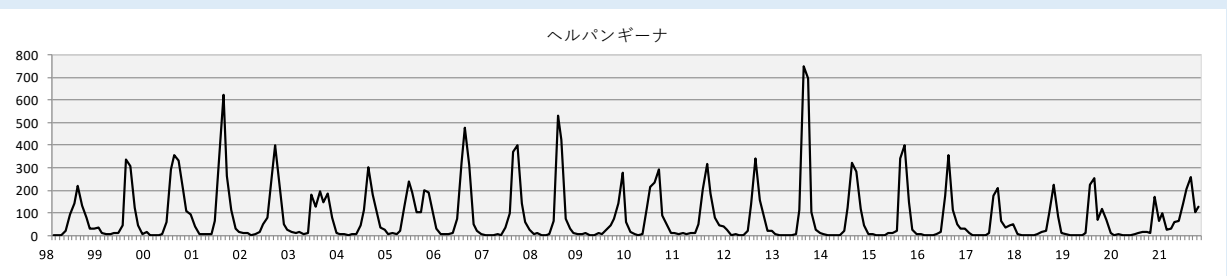
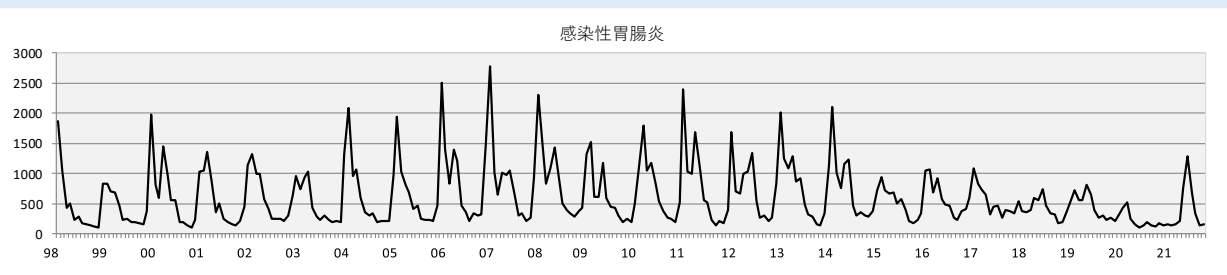
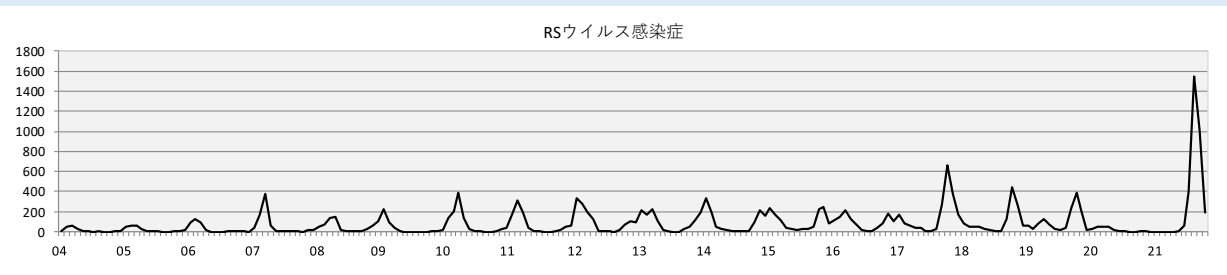
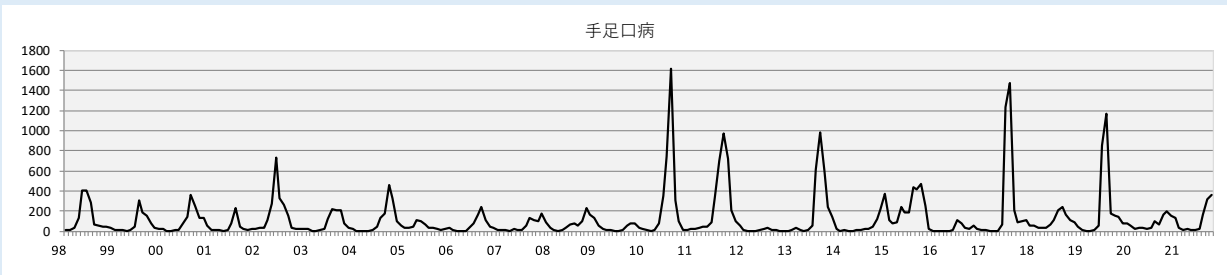
2021年

9月

定点当たりの人数

定点名	疾病名	保健所							計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				
内科・小児科	インフルエンザ										0.02
小児科	咽頭結膜熱			0.89		1.00	0.40	0.44	0.75	0.81	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.43	0.77	1.33	1.00	3.80	1.24	1.53	1.72	
	感染性胃腸炎	2.50	6.15	7.11	0.66	4.00	6.20	5.45	4.82	4.18	
	水痘		0.29	0.77	0.66		0.20	0.43	0.50	0.47	
	手足口病	3.50	7.42	17.78	12.67	28.00	9.60	12.89	11.43	5.68	
	伝染性紅斑		0.28	0.11				0.12	0.04	0.14	
	突発性発疹	0.50	1.29	1.88	0.66	0.50	0.60	1.17	0.60	1.39	
	ヘルパンギーナ	0.50	0.86	3.33	6.33	2.50	13.20	4.53	3.71	0.46	
	流行性耳下腺炎			0.22		0.50	0.20	0.15	0.25	0.26	
	RSウイルス感染症	11.50	2.29	1.77	2.00	3.00	25.20	6.90	36.18	0.04	
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			3.00				1.00	0.33	0.33	
STD	性器クラミジア感染症		0.50	3.00				1.17	0.50	0.33	
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ								0.17		
	淋菌感染症			2.00				0.67			
基幹	細菌性髄膜炎			0.20				0.13	0.13		
	無菌性髄膜炎								0.13		
	マイコプラズマ肺炎								0.26	0.63	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)										
	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)						1.00	0.13			
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		3.00	3.20				1.00	2.50	2.00	
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌感染症										
小児科定点分計		18.50	19.01	34.63	24.31	40.50	59.40	33.32	59.81	15.17	
前月		23.50	44.42	65.87	29.65	28.50	115.60				
前年同月		8.50	9.14	19.37	15.30	40.50	8.40				

注目される疾患別月別推移



類型	病名	報告年																				総計				
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018		2019	2020	2021	
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	45	1855	
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	45	1855	
3	コレラ	1					1						1												3	
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											2					27	
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	4	9	1		207	
	腸チフス			1					1										1				1		4	
	バラチフス	2																							2	
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	4	10	1	0	243	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	1				2		34	
	E型肝炎												1		1								2	1	5	
	オウム病				1		1														1				3	
	Q熱	1	1	2				1																	5	
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	5	5	9	6	4	53
	つつが虫病			9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8	3	3		4	11	2	3	3	93	
	デング熱													1			3	2	1				2		9	
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	13	10	23	11	206	
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1												6	
	マラリア								2					1									1		4	
	レジオネラ症			2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6	9	7	8	7	88
	レプトスピラ症												1	4	2	1					1				9	
		計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	29	36	41	22	515
	5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	3	3			47
ウイルス性肝炎		11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1			2	1	1	2	1	61	
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																		7	19	21	22	21	20	10	4	124
急性弛緩性麻痺																						1	2			3
急性脳炎									1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1		2	1	1	22	
クロイツフェルト・ヤコブ病		1	1	4		4	3	3		6		1	3				2			2	1	1	3		35	
劇症型溶血性レンサ球菌感染症					1	1	1				1		1		1	3		1		3	5	6	2	2	4	32
後天性免疫不全症候群		2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	9	1	6		81	
ジアルジア症			1	2	1							1			1	1					1				8	
侵襲性インフルエンザ菌感染症																		1	5	3	4	7	3	1	24	
侵襲性肺炎球菌感染症																	1	4	12	16	18	14	22	11	8	106
水痘（入院例に限る）																			2	1	1	3		3	2	12
髄膜炎菌性髄膜炎												1														1
梅毒		2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	19	20	35	73	304	
播種性クリプトコックス症																				1	3	5				9
破傷風				3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1		2	3	1	36
バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1								1							1		1	1				5
百日咳																						173	172	35	2	382
風しん											1	1			4	9	1				3				19	
麻疹												5													5	
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	268	251	112	96	1316	
新型	新型インフルエンザ																								34	
	計																								34	
動物	鳥インフルエンザ																								1	
	計																								1	
	総計	61	48	67	42	51	53	47	61	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	398	400	214	163	3964	